

自由研究発表

タレカットのプサントレンの現代的展開
—スルヤラヤの青少年更生施設イナバの事例から—
Contemporary Developments of Pesantren and Tarekat:
A Case Study of Suryalaya's Juvenile Rehabilitation Facility (Inabah)

神内 陽子 (名古屋大学)
JINNAI Yoko (Nagoya University)

スーフィズム (イスラーム神秘主義) の行の側面を意味するタレカット (*tarekat*, 原語はアラビア語の *tariqa*) は、歴史的に東南アジア地域のイスラーム化の促進に寄与したとされる。スーフィズムは、C.ギアーツ (Clifford Geertz) をはじめとする多くの研究者らによって、近代化に伴って衰退するだろうと予想されてきたが、実際には 20 世紀後半以降、行の実践としての、また教団としてのタレカットは衰退することなく、むしろ世界各地で拡大していることが指摘されている [Bruinessen and Howell 2007]。本発表は、インドネシアで広がったタレカットの中で最も多くの信者を獲得し、現在も活発に実践されるカディリヤ・ナクシャバンディヤ系統のタレカット (Tarekat Qadiriyyah-Naqsyabandiyah) を取り上げ、その拠点の一つとして影響力をもつ西ジャワの伝統的イスラーム教育組織ポンドック・プサントレン・スルヤラヤ (Pondok Pesantren Suryalaya, 以下、スルヤラヤ) を事例に、タレカットのプサントレンの現代的展開の一樣相を明らかにすることを目的とする。特に着目するのは、その成功によってスルヤラヤの名声を全国的なものにしたとされる青少年更生施設ポンドック・ルマジャ・イナバ (Pondok Remaja Inabah, 以下、イナバ) である。調査は、2015 年 6 月-2016 年 7 月 (現地調査) および 2016 年 8 月-2024 年 2 月 (オンラインでのインタビュー調査) の間に複数回にわたって実施した。

分析からは、主に以下の 4 点が明らかとなった。すなわち、①1970 年代より発展したイナバは、国内で非行問題、とりわけ薬物乱用問題が深刻化する中で一貫して政府に協力し、その支持の下で社会的信頼を得たこと、②イナバで治療を受けるサントリ (生徒) の抱える「問題」は、薬物依存のほか、飲酒や喫煙、放浪癖、不純異性交遊、同性愛など多岐にわたるが、いずれにせよ非行の根本的な要因はアッラーから遠ざかってしまったことにあるとされ、ズィキル (唱念) の行を主とするタレカットの実践によってアッラーの御許へ戻ることが目指されること、③イナバを出たサントリの一部はスルヤラヤにとどまり、スルヤラヤの財団のもつ各種の学校に通いながら継続指導を受けていること、④イナバのサントリたちが語る更生のストーリーは多様であり、それ故、イナバにおいて想定される「更生」や「回復」と、サントリ自身が経験し意味づける「更生」や「回復」は必ずしも一致しないこと、が明らかとなった。

【参考文献】 Bruinessen, Martin van and Howell, Julia Day, eds. 2007. *Sufism and the 'Modern' in Islam*. London: Bloomsbury Publishing.